

こんにちは。文化財課の児玉です。私の趣味の一つに、廃校舎利用の施設巡りがあります。

先日は、秋田県由利本荘市にあるリニューアルしたばかりの「鳥海山木のおもちゃ美術館」を見学しました。昭和29年（1954）に当初は中学校として建築された、旧鮎川小学校を活用した施設で、国の有形文化財にも登録されています。秋田杉の木目を活かした床や壁、天井、建具など建築当時の特徴が残されています。館内には、地元産の木を使ったおもちゃや大型遊具を設置し、子どもから大人まで楽しむことができます。

学校施設は、子どもの教育施設というだけでなく、地域社会の中心的な存在としての役割を果たしています。近年は、少子化による児童・生徒数の減少、市町村合併などの影響により学校の統廃合が加速しており、その施設の有効活用が求められています。

現在、廃校施設等は様々な用途に活用され、例えば、博物館・美術館のほかにも公民館や体育館、中には宿泊施設などがみられます。

青森市内にも廃校舎利用の施設がいくつかあります。

昭和3年（1928）に浪岡尋常高等小学校として建築された「旧浪岡小学校」は、主としてヒバ材が使用され、外壁はモルタルで仕上げられています。校舎中央に塔屋があり、玄関上部にベランダをもつ車寄せが設けられています。内部は、片側に板敷の廊下があり、腰壁が縦板張となっています。1階は、隣接する「青森市中世の館」の第2展示室として、縄文時代から平安時代の出土品のほか、史料や鉄道に関する展示をしています。2階の教室だった場所は、研修室として利用されています。

また、昭和57年（1982）に建築された旧野沢小学校は、鉄筋コンクリート造で、現在は「縄文の学び舎・小牧野館（青森市小牧野遺跡保護センター）」として活用されています。施設名のとおり、国指定史跡 小牧野遺跡のガイダンス施設として平成27年（2015）にオープンし、遺跡の出土品の展示や保管、遺跡に関する情報発信等を行っています。発掘調査体験コーナーや環状列石くみたてコーナーなどもあり、子どもも楽しめる施設となっています。また、この施設が所在する高田地区では、昭和10年（1935）頃から平成10年（1998）頃まで断続的に「ねぶた」が運行されてきましたが、この施設を拠点に、平成29年（2017）に「高田ねぶた」として復活し、新たな地域活性化が生み出されています。



縄文の学び舎・小牧野館 外観



同左 展示室